

# Tangram puzzles in patients with neurocognitive disorders: a pilot study

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 張, 蒹 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003550">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003550</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2743 号

Tangram puzzles in patients with neurocognitive disorders: a pilot study

「知恵の板 (Tangram)」の介入により神経認知障害群の症状の変化を観察する研究

張 兼 (ちょう けん)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

本研究の目的は「知恵の板」の介入により、神経認知障害群の患者を治療し、認知機能障害を回復できるかどうかを観察した研究である。研究方法は以下の手順である。参加者が週 2～3 回、30～40 分/回、知恵の板を自宅に実施した。Study1 の観察時間は 3 ヶ月、Study2 は 6 ヶ月であった。Study1 では、30 日毎に Mini Mental State Examination (MMSE) を実施した。Study2 では、介入時と終了時に MMSE、Montreal Cognitive Assessment (MoCa-J)、Trail Making Test (TMT) を実施した。心理検査の結果を比較し、認知機能の変化を評価した。なお、統計については主に Wilcoxon の符号順位検定を行い、 $P < 0.05$  をもって有意と判断した。研究結果として、Study1 では参加者 10 人のうち、2 人が中断し、残り 8 人のデータが収集された。介入時と終了時において解析したところ、MMSE トータルスコアで有意差あり ( $p=0.016$ )、特に見当識 ( $p=0.026$ ) での改善も認められた。Study2 では、参加者 10 人のうち、1 人が中断し、9 人のデータが収集された。介入時と終了時において解析したところ、MMSE と MoCa-J のトータルスコアで有意差はなかった ( $p=0.764$ 、 $p=0.839$ )。パイロットスタディとしての考察は以下の通りである。本研究の制限でもあるが、Study1 と 2 は参加者の例数が少なかった。Study1 では「知恵の板」の短期的な効果が示唆されたが、研究実施期間に頻繁に MMSE を測定したため「学習効果」の影響も完全には否定できなかった。そのため、Study2 では心理検査の実施頻度を減らし、さらに観察期間を延長させた。Study2 の結果から、認知機能の回復は認めなかったが、Study 2 の研究実施期間はまさに COVID-19 の流行期であったため、患者及び家族に精神的なストレスだけでなく、自粛生活等の生活習慣の変容が、認知機能にも悪影響を及ぼした可能性もあり、今後もさらなる追加調査が必要と考えられた。